

をくづれ水仙郷散策 (平成 31 年 1 月 8 日 (火))

春の香りを求めて、房総の水仙を見に行く計画を立てた。これまでのビスターリの「観水仙」の行事としては、2014年に「嵯峨山」、2016年に「津森山・人骨山」、2017年の「江月スイセンロード」に続いて4回目になる。今回は平日（火曜日）に行くことにして、参加できそうな人に声を掛けたら、荻野、早坂、三浦、陽田の皆さんが参加されることになった。天気予報では“晴れ一時曇り”だが、今年は昨12月24日からずっと“晴れ”が続いており、大丈夫だろう。

当日は晴れで気温も割合高く、歩くのに良い一日となった。ところが、荻野さんが体調不良で“どたきやん”になり、4名での出発となった。千葉からの内房線車内で全員が集合した。今日は、皆さんは正月あけの出勤日で、中央線ほどではないが車内は超満員である。この線は東京湾臨海工業地帯で、この先君津あたりまでは工場群が続いているのだ。リュックを背負ったおばさん連中が浜金谷で何人か降りたが、リュックの人は全体的には少ない。

9時13分に保田駅に到着、鋸南町営の“青バス”に乗るのだが、まだ30分も待たねばならない。それでタクシーで行くことにした(2,960円)。おかげで9時30分には「をくづれ水仙郷」の北側の入口の着いてしまった。トンネルをくぐると「観光事務所売店」なる所があり、ここから上の方に向かって細い道を歩く。左側の上斜面と右側の崖斜面の両側に水仙が咲き乱れている。この辺りは丁度満開で、良い香りがする。また所々の木に小さな櫻の花が咲いている、2月頃には満開になる「頼朝櫻」だそうだ。道の両側所々に“危険注意”の札が付いた通電電線が張られている、これはイノシシ除けだが、“亥年”の今年はやはり暴れるのだろうか。

やがて大崩公民館（をくづれ）そばにバスの車庫があり、青色の「青バス」と赤色の「赤バス」が並んで待機していた。2016年に「津森山」へ来たときは、ここまで青バスで来て、ここから歩いたのだ。まあちゃんからリクエストされていた“菜の花”を探したら、公民館のすぐ近くの農家で売っているのを見つけた。おばさんが“なばな”だと言う。菜の花の蕾もあるが葉が長い。おばさん曰く「普通農協に出すときには、この葉を切って出すが、この葉部分も美味しいよ。昨日採ったから葉が萎れているが、一晩茎を水浸けて置くとしゃっきりするよ」と云う。早速2把お買い上げ。陽田さんも同じくお買い上げになった。三浦さんは水仙の切り花をお買い上げになりたかったのだが、今ここで買ってしまうと、この先持ち歩いたら駄目になってしまうと反対意見。でも佐久間ダムへ降りてしまったら売ってなくて、結局買えずじまいでした。済みません、反対して。

この道の頂上（峠）付近までで水仙群生地は終わるので、10時25分、その手前で引き返した。「観光事務所」から左折して「佐久間ダム」方向へ下る。少し下ると正面左手にピラミッド形の「伊予岳」(337m)と、かなり離れて右手に双耳峰の「富山」(トミサン、350m) [八犬伝の伏姫と八房が隠れ住んだ山] が望めた。この2座は2008年の忘年山行で登った山だ。

下り道の左手の下を覗くと、かなり広い斜面に水仙の一大群落が見える、しかし道路端に高さ2m以上の青色のネットが張られていて、写真を撮ることができない、通電電線も張られていたから、猪

除けらしいが、この崖端に猪が来るだろうか、“意地悪“ときり思えなかったが。「佐久間ダム」近くまで下りてくると、東屋もあり水仙の群落を一段と素晴らしくなった。11時15分、ダム湖岸まで下り小休止する。ダム湖の対岸の向う斜面も一面水仙の群落地になっている。遊歩道や展望台なども設えてあり、歩くのも面白そうだ。また周囲には櫻の木も多く、この時期も良さそうだ。

当初予定の「旧佐久間小学校」まで歩くのは、少ししんどくなってしまったので、約1km先の「大崩入口バス停」まで歩いて、そこから12時10分発の青バスに乗って最終目的の「ばんや」に向かった。

保田魚協直営の「ばんや」は、やはり平日にも関わらず結構混んでいた。でも少し離れた客の少ない席だったのでよかった。会のこれからの方向性や、行事などについて話をしながら、鮪のカツレツや鮪のカマなど魚料理を堪能した。

14時30分に「ばんや」を出て保田駅に向かう。15時05分発の電車に乗り、君津で逗子行きの特急に乗り換える。錦糸町で新宿へ向かう組と、そのまま乗って行く組に分かれて車内流れ解散とした。

(伊藤)